

血液培養より *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar Typhi が分離された 1 例

◎星野 美月¹⁾、高羽 桂¹⁾、海住 博之¹⁾、秦 由佳¹⁾、坂下 文康¹⁾
三重県立総合医療センター¹⁾

【はじめに】腸チフス菌 (*Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar Typhi : 以下 S. Typhi) は全身感染症を引き起こす 3 類感染症届出対象菌であり、一般のサルモネラ菌とは区別される。今回、血液培養から S. Typhi が分離された症例を経験したので報告する。

【症例】80 歳代男性。8 日間インドネシアに滞在し帰国。帰国から 5 日後に転倒し左殿部から大腿部痛を主訴に当院へ搬送された。現病歴：左大腿骨頸部骨折、尿路感染症。基礎疾患：COPD。入院時身体所見：体温 40.0℃。検査所見では CRP は 2.580mg/dL と炎症反応を示していた。入院時に血液培養採取後 CTRX にて抗菌薬治療が開始された。翌日に血液培養が陽転化、ESBL 産生 *Escherichia coli* の検出歴があったため MEPM へ変更。菌種および薬剤感受性確定後 CTRX へ de-escalation、その後 LVFX へ変更となった。

【細菌学的検査】入院時に採取された血液培養 2 セット全てが約 15 時間後に陽転化しグラム陰性桿菌が確認できた。血液寒天/BTB 培地にて 35℃、5%CO₂ 下でサブカルチャーを行い MALDI BIOTYPER (BRUKER) で *Salmonella* spp.

と同定された。サルモネラ免疫 O 血清では O 多価 (-)、O1 多価 (-)、Vi 血清 (+)、熱処理後は O 多価 (+)、Vi (-)、O7 群 (-)、O9 群 (+)。この結果から S. Typhi または S. Dublin が疑われたが、H 血清では m、g、a、d いずれも凝集は陰性であったため確定に至らず、ID32E アピ (BIOMERIEUX) を用いて検査を行ったところ S. Typhi (99.9%) と同定された。また、試験管培地では少量の硫化水素が確認されたため S. Typhi を強く疑ったが、H 血清を用いた検査結果を考慮し S. Typhi 疑いという結果で報告した。その後、三重県保健環境研究所にて PCR 法による特異遺伝子検査を実施したところ S. Typhi と同定された。なお、入院 3 日目に便培養が提出されたが、S. Typhi は検出されなかった。

【結語】今回分離された S. Typhi は H 血清において d 陰性であったが、生化学的性状から S. Typhi 疑いと臨床へ報告することができた症例であった。

059-345-2232 (内線 2272)